

ブラジルにおける日本語教育事情

浮田三郎

はじめに

今日、日本語は世界の多くの国で学ばれるようになった。しかし、それは、必ずしも純粹に日本語、日本文学あるいは日本文化が国際的人気度を高めたからと言うことではないようである。日本の経済的發展が大きな理由だと言えるであろう。ちなみに、その事実に比べると、日本人の国際的な精神的・文化的發達は遅れているようである。そして、世界の日本語教育事情を見ると、各地で様々な動きあるいは流れができてきているようである。そこで、本稿では、ブラジルのサンパウロ大学に出張した時見聞したこと等を交えて、ブラジルにおける日本語教育事情とそれに関わる問題点とか課題とかを考えてみたい。

1. 世界の日本語教育

ブラジルの日本語教育事情を見るために、世界の日本語教育の情勢はどんなものかを、国際交流基金監修『海外日本語教育機関一覧』から見てみよう。

(表1) 海外日本語教育機関一覧

A 地域別総表

地域名	機関数	講師数	学習者数
1 東アジア	723	2,994	415,718
韓 国	(445)	(882)	(356,852)
*中 国	(277)	(2,109)	(58,853)
			** [500,000]
2 東南アジア	232	658	51,989
3 南アジ	30	97	2,380
4 大洋州	284	492	26,953
5 北米	506	1,332	41,535
6 中南米	548	995	31,522
7 西欧	241	518	12,616
8 東欧	38	92	1,366
9 中近東・アフリカ	18	39	855
計	2,620	7,217	584,934 *** [1,000,000]

* 中国には台湾・香港・マカオを含む。

** 中国の1984年調査集計の58,853名のほかに、20数万人の中学・高校生(1983年中国教育部[当時]外事局の資料による)と業余大学・民間日本語学校等における一般成人約20万人(1984年在中国日本語研修センター資料を基にした推計による)の日本語学習者があると推定されているので、全体として中国の日本語学習者数を約50万人([]内)と推計した。

*** 中国の日本語学習者数を50万人と推計すると、海外の日本語学習者の合計は約100万人となる。

()内は内数

B-1 東アジア

国または地域名	機 関 数	講 師 数	学 習 者 数
韓 国	445	882	356,852
中 国	217	1,845	41,766
< 台 湾 >	11	130	9,145
< 香 港 >	47	129	7,784
< マカオ >	2	5	158
モ ン ゴ ル	1	3	13
計	723	2,994	415,718

B-2 東南アジア

国または地域名	機 関 数	講 師 数	学 習 者 数
イ ン ド ネ シ ア	124	284	27,605
シ ン ガ ポ ル	15	68	4,822
タ イ	34	155	13,282
ビ ル マ	1	9	540
フ ィ リ ピ ン	24	50	2,028
ベ ト ナ ム	2	2	-
マ レ ー シ ア	32	90	3,712
計	232	658	51,989

B-3 南アジア

国または地域名	機 関 数	講 師 数	学 習 者 数
イ ン ド	15	45	986
ス リ ラ ン カ	5	13	375
ネ パ ー ル	5	27	624
パ キ ス タ ン	3	8	288
バ ン グ ラ デ シ ュ	2	4	107
計	30	97	2,380

B-4 大洋州

国または地域名	機 関 数	講 師 数	学 習 者 数
オ ー ス ト ラ リ ア	217	368	21,430
ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	64	120	5,423
パ プ ア ・ ニ ュ ー ギ ニ ア	2	3	79
フ ィ ジ ー	1	1	21
計	284	492	26,953

B-5 北 米

国または地域名	機 関 数	講 師 数	学 習 者 数
ア メ リ カ 合 衆 国	445	1,109	36,161
< サ イ パ ン >	3	4	236
< パ ラ オ >	4	7	347
< ミ ク ロ ネ シ ア >	4	—	211
カ ナ ダ	50	212	4,580
計	506	1,332	41,535

B-6 中 南 米

国または地域名	機 関 数	講 師 数	学 習 者 数
ア ルゼンチン	36	70	1,736
ウルグアイ	1	3	94
コスタリカ	2	3	44
コロンビア	2	9	141
チリ	1	5	62
ドミニカ	1	9	92
パナマ	1	3	40
パラグアイ	19	74	1,345
ブラジル	454	697	21,690
ベネズエラ	2	2	150
ペルー	13	58	4,441
ボリビア	5	15	361
メキシコ	11	47	1,326
計	548	995	31,522

B-7 西 欧

国または地域名	機 関 数	講 師 数	学 習 者 数
アイルランド	1	2	30
イタリヤ	16	49	1,014
オーストリア	7	13	1,093
オランダ	7	26	435
ギリシャ	1	3	42
スイス	12	21	791
スウェーデン	5	16	321
スペイン	4	5	247
デンマーク	5	13	141
ドイツ連邦共和国	56	112	2,241
ノルウェー	3	6	61
フィンランド	7	8	348
フランス	45	127	3,368
ベルギー	10	12	512
ポルトガル	1	2	25
ルクセンブルグ	1	1	20
連合王国	60	102	1,927
計	241	518	12,616

B-8 東 欧

国または地域名	機 関 数	講 師 数	学 習 者 数
ソ 連	9	25	144
チ エ コ ス ロ バ キ ア	2	5	176
ド イ ツ 民 主 共 和 国	1	7	44
ハ ン ガ リ ー	7	8	138
プ ル ガ リ ア	1	4	267
ポ ー ラ ン ド	12	31	365
ユ ー ゴ ス ラ ビ ア	4	6	62
ル ー マ ニ ア	2	6	170
計	38	92	1,366

B-9 中近東・アフリカ

国または地域名	機 関 数	講 師 数	学 習 者 数
イ ス ラ エ ル	2	5	207
イ ー ラ ク	1	—	—
エ ジ プ ト	2	7	149
シ リ ア	1	3	26
チ ュ ニ ジ ア	1	3	54
ト ル コ	5	8	124
モ ロ ッ コ	1	2	151
ケ ニ ア	3	5	55
ザ イ ー ル	1	5	42
マ ダ ガ ス カ ル	1	1	47
計	18	39	855

この表から、上位数カ国だけを取り出して、機関数及び講師数に対する学習者数を算出してみると、次のようになる。

(表2) 機関数

1位：ブラジル：	454
2位：韓 国：	445
2位：アメリカ合衆国：	445
4位：中 国：	217
4位：オーストラリア：	217
6位：インドネシア：	124

(表3) 講師数

1位：中 国：	1,845
2位：アメリカ合衆国：	1,109
3位：韓 国：	882
4位：ブラジル：	697
5位：オーストラリア：	368
6位：インドネシア：	284

(表4) 日本語学習者数

	総学習者数	／機関数	／講師数
1位：韓国	356,852	802	405
2位：中国	41,766	192	23
3位：アメリカ合衆国	36,161	81	33
4位：インドネシア	27,605	223	97
5位：ブラジル	21,690	48	31
6位：オーストラリア	21,430	99	58
* :カナダ	4,580	92	22

機関数及び講師数に対する学習者数の条件を見ると、機関数に対しては、ブラジルが一番良い条件であるが、講師数に対しては、中国続いてブラジル、アメリカ合衆国の条件が良いことが分かる。ちなみに、アメリカ合衆国の様子とカナダの様子がよく似ていることも分かる。これは、中国新聞社のある記者が、「アメリカ合衆国とカナダの日系の人々に関わる日本語教育事情はよく似ていて、ブラジルのそれとは非常に異なっている」と言っていたことと同調している。

教育機関について見ると、アメリカ合衆国の場合は、大学、高等学校のような高等教育機関の中にあり、ブラジルの場合は、日本語教育のある大学等の高等教育機関は少なく、日系社会の中の小・中学校の児童・生徒向けの一般の日本語学校が多いようである。この点、米国の日本語教育とはかなり事情が違うと言えそうである。

2. ブラジルの日本語教育

1) 日本語教育機関と日本語教育事情

それでは、国際交流基金監修『海外日本語教育機関一覧』を利用して、ブラジルの日本語教育の機関とそこで学ぶ学習者を見てみよう。高等教育機関では、以下のような国公立大学に日本語教育の学科あるいは講座等がある。主なものは、例えば、

サンパウロ大学（州立）、日本学科（SP）：165人

ロンドリーナ州立大学、日本語講座（PR）：42人

バイア連邦大学、アジア・アフリカ研究所（BA）：44人
パラ連邦大学、文学美術学部外国語科（ベレン、PA）：60人
パラナ連邦大学、日本語講座（PR）：195人
リオ・デ・ジャネイロ連邦大学、日本語コース（RJ）：39人
リオ・グランデ・ド・スール連邦大学（RS）：101人
国立ブラジリア大学（BR）
カンピーナス連邦大学（ユニカンピ）（カンピーナス、SP）
ウネスピ（アシス、SP）

等であるが、上にも述べたように、これらの機関以外に、一般の日本語学校が圧倒的に多く、サンパウロ州、パラナ州、ベレン州、リオ・グランデ・ド・スール州、等、日系社会を中心とした小・中学校の児童・生徒及び一般向けの日本語教育機関が非常に多い。

ところで、これらの日本語学習者の日本語学習の動機は、筆者が見聞したところでは様々である。多くの子供達は、「日系移民の子供だから」とか「親が言うから」とか「家で親が日本語を話すから」まあ（なんとなく）勉強しておこうといったものも多いようである。

子供達の場合は、目的はぼんやりしているものが多いようであるが、青年成人の場合は、「日本へ行って働くため」という目的で勉強をしている者がここ数年多いようである。上でみたような、大学などの高等教育機関での日本語学習者の中には、専門家志望か研究者志望の者もいるがその数は少ない。日本語を活用した有利な職業につきたいと言う者もいるが、なかなか大学卒業者に見合うような日本語関係の職業は多くないようである。

年齢の面からみると、全体的には、幼少の者から青年や壮年層にも日本語学習者がいる。また、子供の時に学習して、何年か休んで、また日本語学習を始めるといった者も少なくない。学習者の日本語の能力は、したがって、それぞれの環境や動機や目的によっても色々である。例えば、サンパウロ大学では、大学に入ってから日本語を学習し始めたと言う学生で、会話ではかなり難点が見つかるようでも、筆記試験では優秀な成績を修める学生もいる。

教科書や教材に関しては、ほとんどの機関でポルトガル語で解説してある日本語教科書が使用されているようであるが、それらは、サンパウロ大学で開発されたものやそれぞれの機関が開発したものである。

ところで、ここ数年間、一般の日本語教育機関にとっては頭の痛い問題点が出てきたようである。それは、日本語教師の日本流出である。一般の日本語教育機関では、日本語の教師が日本に働きに出て行って、有能な日本語教師がいなくなる場合があると言うのである。

日本語学習熱は、前にも述べたように、主に日系の人が持っているようで、ほとんどの

非日系の人にとっては魅力無いと言える。この点で、北米のアメリカ合衆国やカナダの日本語熱とは趣が異なるようである。

2) 大学の日本語教育機関

次に、サンパウロ大学の日本語教育事情を中心に、いくつかの大学に関して、日本語教育事情を述べてみよう。

サンパウロ大学の日本語教育は、文学部の東洋学科の日本語講座（日本文化研究所）で行われている。四年制で、文学部関係は昼夜の二部制であり、上の表では、日本語学習者165人と示されているが、1～4年生の合計である。外にも伝統のある有名な大学は沢山あるが、サンパウロ大学の日本語・日本文化の研究と教育は、ブラジル国内では群を抜いており、日本語教育、日本語・日本文学・日本文化研究の中心的な役割を果たしている。現在の研究所スタッフは、名誉教授1名と博士号をもつ教授4名と助教授・講師が3名で、司書、事務補佐が2名おり、これ程充実した日本語教育機関は他に例を見ない。さらに、国際交流基金の協力により、毎年日本から日本人の客員教授（1989年までは2名、1990年からは1名）が着任している。教授5人の専門分野は、語学関係3名、文学関係1名、日本文化関係1名であり、日本語・日本文学・日本文化研究に力を入れている。

学際的活動としては、日本語・日本文学・日本文化研究の研究発表会及び講演会を年に2～3回行っている。他の大学からも研究者や教師が参集し、熱心な研究発表会が行われている。

カリキュラムあるいは授業（1991年度、前期・後期）の様子は次頁の表のようである。

(表5-A) MATÉRIA DADA NO 1º SEMESTRE DE 1991 (1991年度前期)

DISCIPLINA (科目名)	対 象 (学年)	時間	講義内容 (テキスト)	テキストの著者
AUDIOVISUAL I (視聴覚会話 I)	1	4	かな入門 Modern Japanese An Introduction to Advanced Spoken Japanese ニュースで学ぶ日本語	Mizutani Inter Univ. Center for Jap. Lgg. Studies 森松/堀 他
LINGUA I (日本語 I)	1	4	Curso de Língua Jap. I Introd. à gramática da língua Jap.	Centro de Est. Japoneses da USP
LINGUA III (日本語 III)	2	2	信念・天声人語・我が母のことなど 過去・お月見	武田泰淳・天野貞 祐・谷川俊太郎・ 小林秀雄
LITERATURA I (日本文学 I)	2	2	「清兵衛とひょうたん」 (exposição) 「灰色の月」「真鶴」「正義派」 (seminário) 「剃刀」(prova)	志賀直哉
LINGUA V (日本語 V) (古典文法 1)	3	2	「古文入門 三訂版」 「文語文法演習」	浅尾芳之助 旺文社 (編著)
LITERATURA III (日本文学 III)	3	2	「阿部一族」 密柑・枯野抄	森鷗外 芥川龍之介
CULTURA I (日本文化史 I)	3	2	中学社会 新日本史	日本書籍株式会社 自由書房
LINGUA VII (日本語 VII) (古典文法 3)	4	2	「新選 古文」	野間正英 岩崎幸一 (日栄社)
LITERATURA V (日本文学 V)	4	2	納屋を焼く 赤い繭・魔法のチョーク	村上春樹 安部公房
LITERATURA CLASSICA I (古典文学 I)	4	2	百人一首 (常用口語便覧) 浜島書店	藤原定家 (?)

(表5-B) MATÉRIA DADA NO 2º SEMESTRE DE 1991 (1991年度後期)

DISCIPLINA (科目名)	対象 (学年)	時間	講義内容 (テキスト)	テキストの著者
AUDIOVISUAL II (視聴覚会話)	1	4	An Introduction to Modern Japanese ヤンさんと日本人々	水谷修/信子
LINGUA II (日本語II)	1	4	“Lg. Jap.1” Textos 1. 智恵子 2. 障子 火花・浪・朝のリレー・浮世絵	1. 高村高太郎 2. (天声人語) 芥川龍之介・ 谷川俊太郎
LINGUA IV (日本語IV)	2	2	「近代文学の精神」 「或る夜」 1. 水の東西 2. 文章の個性化 3. 生活科について	成瀬正勝 安倍よししげ 1. 山崎M. 2. (教科書) 3. 河上T.
LITERATURA II (日本文学II)	2	2	「羅生門」 「ある阿呆の一生」	芥川龍之介
LINGUA VI (日本語VI) (古典文法2)	3	2	「文語文法演習」	旺文社
LITERATURA IV (日本文学IV)	3	2	夢みる少年の昼と夜・鬼・死神の馭者 「もの食う女」 「橋を築く」	福永武彦 武田泰淳
CULTURA II (日本文化史II)	3	2	diferencas naturalistas diferencas de nível ginasial e colegial (em Japones)	divisões de autores, estrangeirismo (princ. infl. Franceses)
LINGUA III (日本語VIII) (古典文法4)	4	2	「新選 古文」	野間正英 岩崎幸一 (日栄社)
LITERATURA VI (日本文学VI)	4	2	ほっちゃん 心	夏目漱石
LITERTURA CLASSICA II (古典文学II)	4	2	雨月物語 (浅芽の宿・夢応の 鯉魚) 雨月物語 雨月物語評釈	上田秋成 (古典集成) 青木正次 鶴月 洋

四年制の昼夜二部制の受講生の様子は、朝の授業には大体若い学生が出席し、夜間の授業には日中職を持つ二十才代後半から四十才代の学生が多い。男女比は、ここでも女性上位で、大体1：9である。

一般には、3・4年生になるまで学習を続けている学生の日本語のレベルは高いが、目的がいまだにはっきりしていない者もいる。入学したときから日本語の実力は相当あった学生もいれば、入学して初めて日本語を学習し始めた学生もいる。後者にとっては、3・4年生になるまで正規のカリキュラムについていくことはかなりハードのようである。もちろん、後者の中にむしろ成績優秀な学生もでてくることもある。

正規の授業以外にも、数名の学生あるいは教官に、日本人客員教授による日本語等の個別の特別指導が行われている。特別指導を受けられる学生は、サンパウロ大学の日本文化研究所が選び、国際交流基金から奨学金が支給される。

大学院は、1992年度から設置される予定であったが、その後の情報は入手できていない。

その他、特別講座を開設し、日本人客員教授と研究所の教授が受け持ち、それぞれの専門と関連した高度な講義が目ざされてはいるが、聴講生は一般からも募集しているし、聴講生の本音は楽しく日本文学や日本文化に触れたいからと言う者が多い。この講座は、ある意味では、大学院との関連で開講しているとも聞いていたが、聴講生の側には大学院の講義のような意識は無いようである。

図書館は、十分なスペースがあり、日本語・日本文学・日本文化研究に関する図書が充実している。

日本語のレベルは、入学時には初級者から上級者までと幅広いようであるが、3・4年生になるまでに概ねふるいに掛けられ、この時点で残っている者の日本語能力は全体的には高いと言える。ただ、入学時には日本学科は第二志望であった者もいる。

日系の学生と非日系の学生との割合は、3・4年生で、大体9：1で、圧倒的に日系の学生が多く、この点が、アメリカ合衆国やカナダと異なるようである。

大学で両者が同じようにスタートした場合でも、個人差はあるが、日系の学生の方が滑らかな日本語を話すようになるという印象がある。その理由をいろいろと探してみたが、日系の人の方が何かと日本語に触れる機会が多いからであろう。

日本語教育に関する教材という面では、既にサンパウロ大学が開発した教科書等があるが、なお試行錯誤しながらより良い教科書や教材等の作成を目指している。

教材作成のための機器（コピー機やワープロ等）は十分な状態ではない。

LL教室は広く40ブース以上あり、LL機器は、当時としては最新式であったようであるが、現在は旧式である。独自の教材も開発中であり、よく利用されている。

日本国外で、特に日本と緯度の異なる地方での日本文化理解は易しくないが、ブラジルでの日本語教育の場合も、日本、日本文化や日本の自然などを理解し、感覚的にも分かる

ことは難しいようである。例えば、「何故日本人が春を待ちこがれ桜を見て単純に喜ぶのか」あるいは「四季の移り変わりに一喜一憂するのか」等を説明しても、感覚的にも十分理解することは易しくないようである。日本に来て冬を経験してこれが分かったような気がすると言ったブラジルからの留学生もいた。風俗・習慣に関しては、風呂や温泉の親しみ方もなかなか理解されない事柄の一つである。

その他、サンパウロ州内の二つの大学を簡単に紹介しておこう。

ウニカンピと呼ばれるカンピーナス連邦大学でも、日本語教育が行われている。日本語教育に携わっている教官は、2名（内1名は言語学科の併任）で、筆者が見学に行った時は、初級のクラスは20名以上、中・上級のクラスは10名程度であった。

ウネスピと呼ばれる大学は、やはりサンパウロ州立で、一部の学部が、日系の家族が相当住んでいるアシスという町にある。1992年度から日本語講座が開設され、専任教官が1名つき、広島大学で日本語・日本文化研修生として学んだこともある専門家はその任に当たっている。それまでは、日本語講座として開講され、サンパウロ大学の教授が講師として、週末何度か講義をしたようである。その時は、聴講生の多くは日系の学生で、一般からも聴講生募集をしていた。

広島から見るブラジルの日本語教育事情で、ニュースと言え、最近、広島大学はブラジルから日本語・日本文化研修生をよく引き受けている。1991年度は、サンパウロ大学、リオ・デ・ジャネイロ連邦大学、国立ブラジリア大学から各1名の合計3名の研修生を受け入れている。1992年度は、サンパウロ大学から1名受け入れている。ちなみに、サンパウロ大学は、ここ何年間も5名程度の大量の日本語・日本文化研修生を送りだしている。

おわりに

以上、サンパウロ大学の日本語教育関係を中心に、ブラジルの日本語教育事情について述べてみたが、筆者の見聞には限られたものがあり、こちらの角度からは見えなかった点、記述不足の点も多々あると思うので、大方の御批評を乞うところである。

1章で述べたように、日本語教育は世界の国々で益々盛んに行われてきているが、現在の日本の留学生の受け入れと日本語教育は、日本が世界に理解されるためまた日本の国際化のために、大いに考えられなければならないところである。国政的、経済的なレベルでも、国際交流基金、ジャイカ等の努力は大きい。しかし、こうした精神文化面の努力が、帝国主義につながってはならない。

そのためには、異文化間の相互理解が大切であることは言うまでもない。真の国際理解あるいは異文化理解は、決して一方通行、あるいは片思いでは、実現できないのである。そして、人間同士が、偏見を無くして、お互いに理解し合うためにも、色々な観点を考え

た言語教育が大切で、日本語教育もその一点を担っているのである。

なお、サンパウロ大学の日本語関係の授業関係資料は、サンパウロ大学、日本文化研究所にその提供をお願いしたところ、快く提供して頂いた。稿末を借りて、感謝の意を表したい。ありがとうございました。

参 考 資 料

国際交流基金監修、『海外日本語教育機関一覧』、凡人社、1987年
アルク、『日本語教育年鑑』、(1988.3～1989.3)、凡人社、1990年
サンパウロ大学の日本語関係の授業関係資料（サンパウロ大学、日本文化研究所提供）